

2014年11月13日

2015年3月期 第2四半期 決算説明会資料

ZÉNSHO

株式会社 ゼンショーホールディングス

本資料に関するご注意

本資料の内容は、現在入手可能な情報から当社の経営者の判断に基づいたものであり、リスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因により、実際の業績につきましては本資料の内容と異なる可能性があることをご了承ください。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料中の情報の使用により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は一切責任を負いません。

本資料の著作権は、株式会社ゼンショーホールディングスに帰属します。当社に無断で転用、複製等することはできません。

株式会社 ゼンショーホールディングス

- 売上高 2,515億円 (前年同期比 +10.5%)
営業利益 11億円 (同 ▲73.0%)
当期純利益 ▲22億円
- 既存店売上高前年比
 - 連結 102.8%
 - 牛丼カテゴリー 105.0%
 - レストランカテゴリー 100.1%
 - ファストフードカテゴリー 104.4%
- 新規出店数 100店舗
 - 国内 79店舗
 - 海外 21店舗
- すき家の深夜における一部店舗の営業休止と原材料価格の上昇が
主要因となり、減益となりました

損益計算書

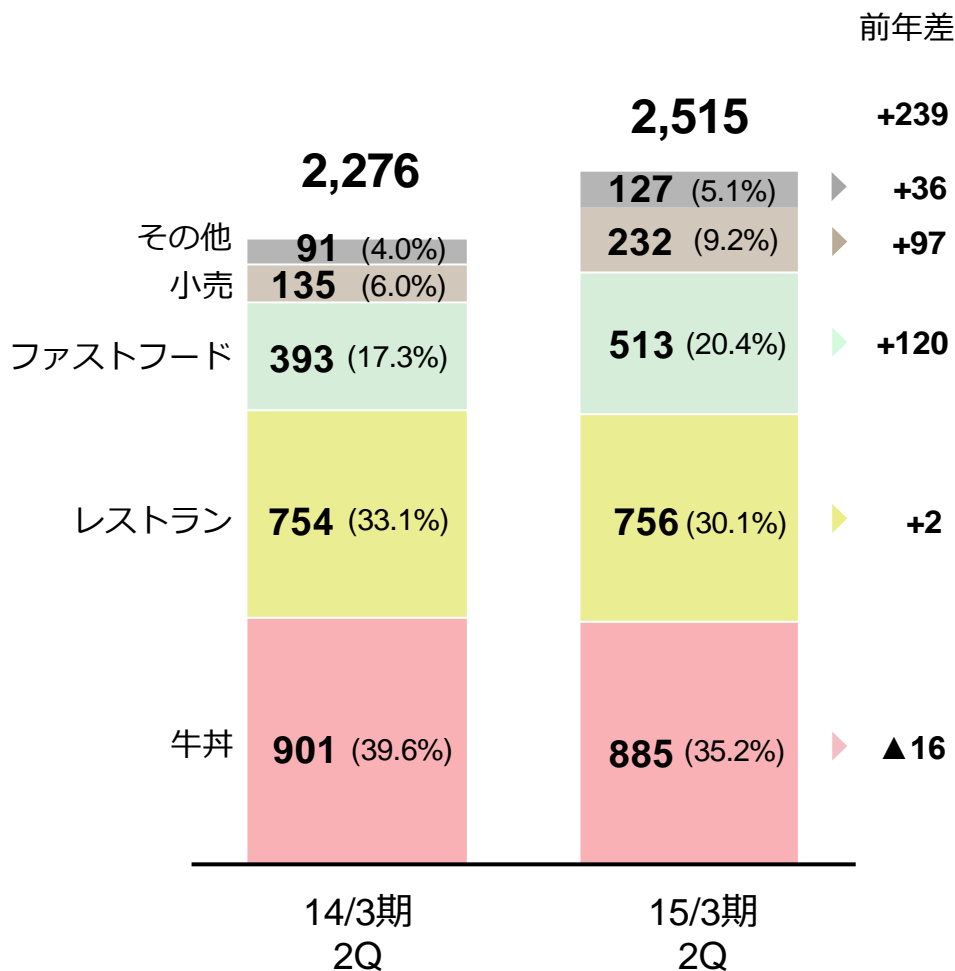
(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計		
	実績	実績	前年差	伸び率
売上高	2,276	2,515	+239	+10.5%
原価	903	1,075	+171	+19.0%
(対売上高%)	(39.7%)	(42.8%)	(+3.0%pt)	
販売費及び一般管理費	1,329	1,428	+99	+7.5%
(対売上高%)	(58.4%)	(56.8%)	(▲1.6%pt)	
営業利益	43	11	▲31	▲73.0%
(対売上高%)	(1.9%)	(0.5%)		
経常利益	41	10	▲30	▲74.0%
(対売上高%)	(1.8%)	(0.4%)		
四半期純利益	4	▲22	▲26	—
(対売上高%)	(0.2%)	(—)		

カテゴリー別分析：売上高

%は売上高構成比

(億円)



● 牛丼カテゴリー

▲16 億円 (▲1.8%)

すき家の営業休止の影響が
主要因で減収。

● レストランカテゴリー

+2 億円 (+0.3%)

既存店売上高の増加および円安
による米国CRG社の円ベースの
売上高の増加が主要因で増収。

● ファストフードカテゴリー

+120 億円 (+30.5%)

はま寿司の新規出店および
既存店売上高の増加が主要因で
増収。

● 小売事業

+97 億円 (+71.4%)

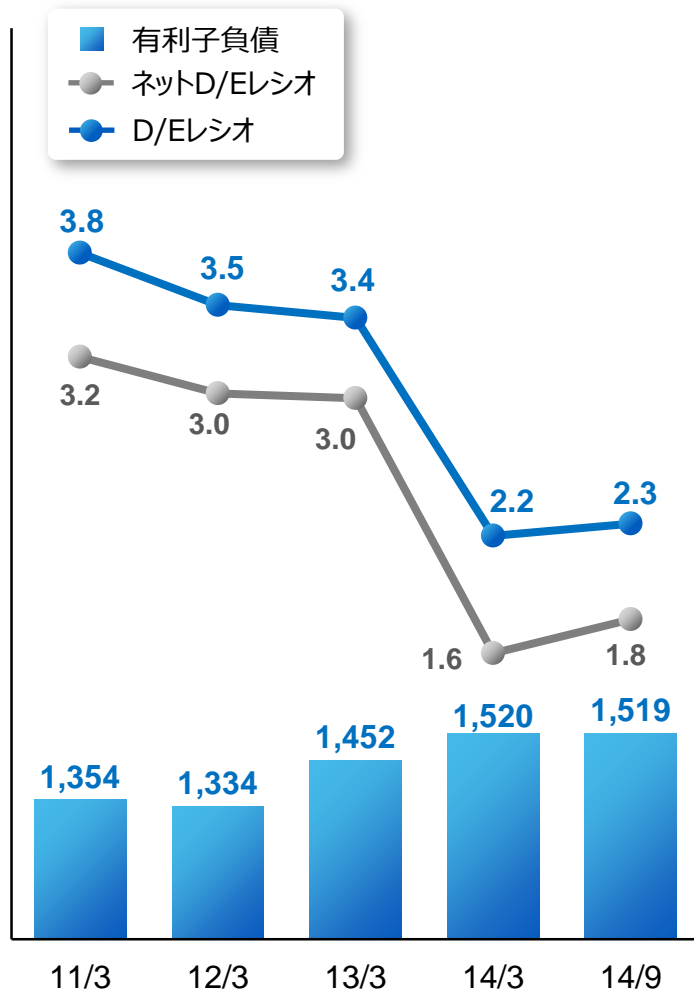
貸借対照表

(億円)

	14/3末	14/9末	増減		14/3末	14/9末	増減
流動資産	778	743	▲35	有利子負債	1,520	1,519	▲1
現金及び預金	443	350	▲92	その他負債	598	620	+22
その他流動資産	335	392	+57	負債合計	2,119	2,140	+21
固定資産	2,150	2,191	+41	株主資本	722	688	▲34
有形固定資産	1,298	1,333	+35	利益剰余金	247	213	▲34
無形固定資産	197	212	+15	その他の包括利益 累計額	▲35	▲22	+13
投資その他の資産	655	645	▲9	少数株主持分	126	130	+4
繰延資産	2	2	+0	純資産合計	812	796	▲16
資産合計	2,931	2,937	+5	負債純資産合計	2,931	2,937	+5

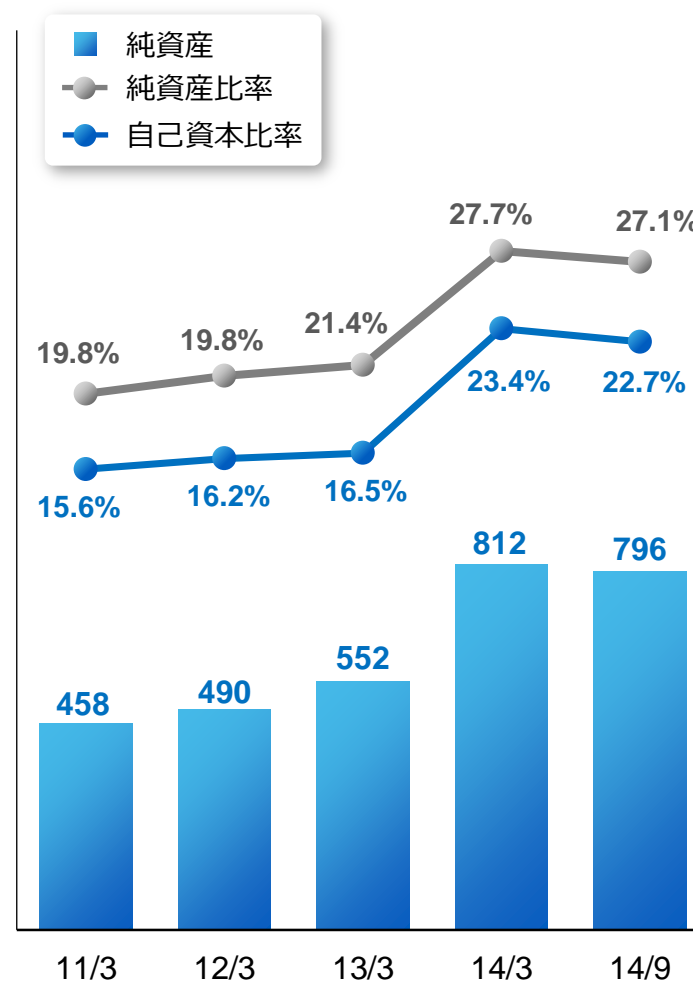
(億円,倍)

有利子負債及びD/Eレシオ



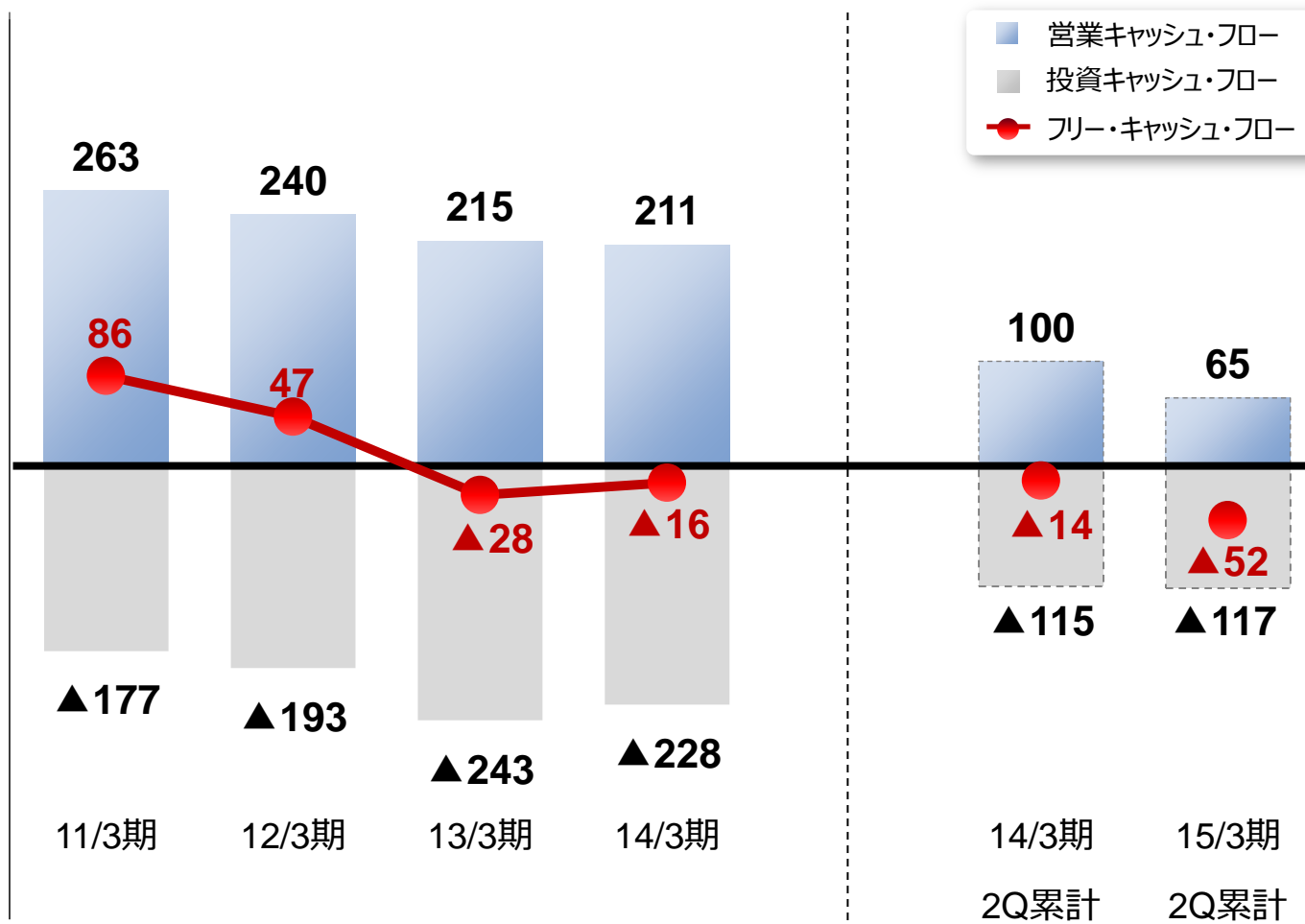
(億円,%)

純資産比率及び自己資本比率



キャッシュ・フロー

(億円)



業績ハイライト

- 売上高 5,092億円 (前年同期比 +8.7%)
 - 営業利益 ▲17億円
 - 当期純利益 ▲75億円

- 既存店売上高前年比
 - 連結 102.5%
 - 牛丼カテゴリー 102.8%
 - レストランカテゴリー 100.8%
 - ファストフードカテゴリー 105.5%

- 新規出店数 184店舗
 - 国内 133店舗
 - 海外 51店舗

- 牛肉を中心とした原材料価格の更なるコストアップを見込んだことに加え、すき家の深夜営業休止店舗の影響により、営業利益は▲17億円となる見込みです。

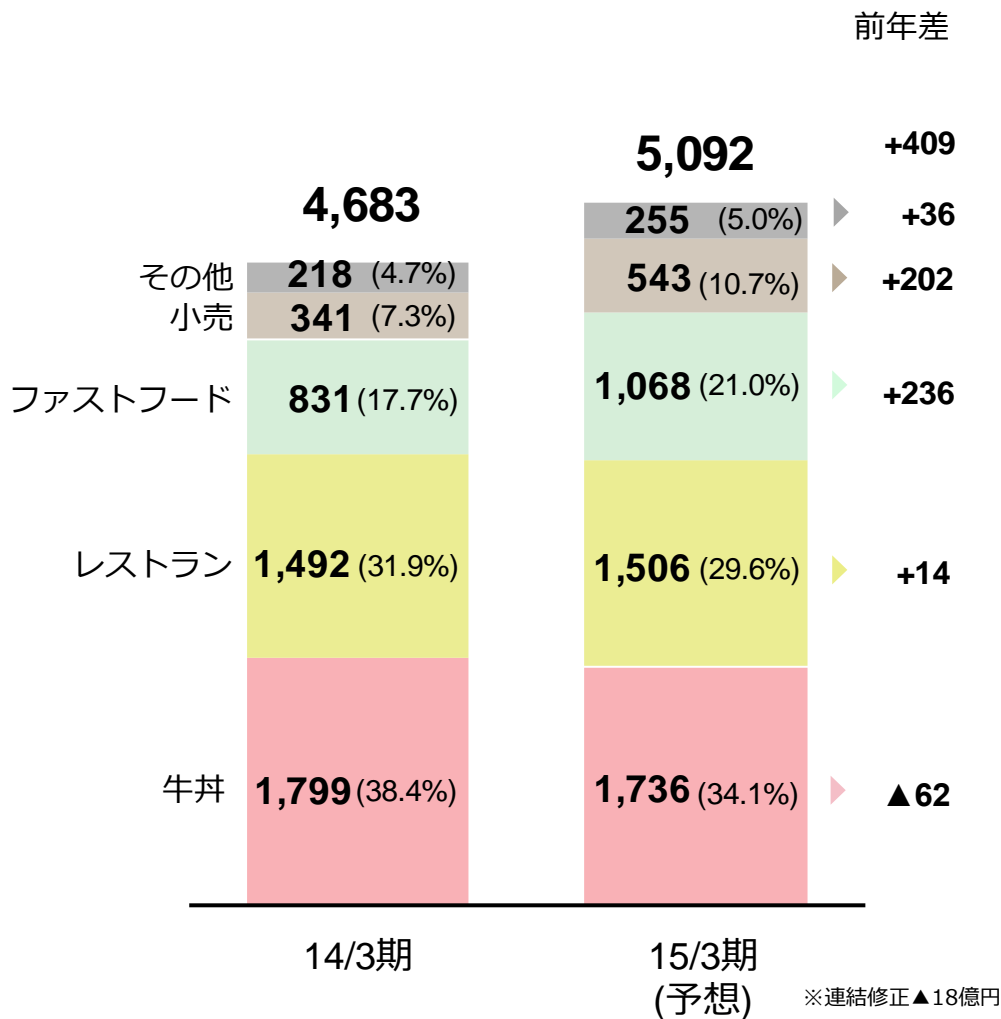
(億円)

	14/3期	15/3期				
	通期実績	上期	下期予想	通期予想	前年差	伸び率
売上高	4,683	2,515	2,577	5,092	+ 409	+8.7%
原価 (対売上高%)	1,914 (40.9%)	1,075 (42.8%)	1,137 (44.1%)	2,213 (43.5%)	+ 299 (+2.6%pt)	+15.6%
販売費及び一般管理費 (対売上高%)	2,688 (57.4%)	1,428 (56.8%)	1,468 (57.0%)	2,897 (56.9%)	+ 209 (▲0.5%pt)	+7.8%
営業利益 (対売上高%)	81 (1.7%)	11 (0.5%)	▲29 (-)	▲17 (-)	▲99	—
経常利益 (対売上高%)	79 (1.7%)	10 (0.4%)	▲34 (-)	▲24 (-)	▲103	—
当期純利益 (対売上高%)	11 (0.2%)	▲22 (-)	▲53 (-)	▲75 (-)	▲86	—

カテゴリー別分析：売上高

%は売上高構成比

(億円)



● 牛丼カテゴリー

▲62 億円 (▲3.5%)

すき家の営業休止の影響が
主要因で減収。

● レストランカテゴリー

+14 億円 (+1.0%)

既存店売上高の増加および円安
による米国CRG社の円ベースの
売上高の増加が主要因で増収

● ファストフードカテゴリー

+236 億円 (+28.5%)

はま寿司の新規出店および
既存店売上高の増加が主要因で
増収。

● 小売事業

+202 億円 (+59.1%)

グループ店舗数及び連結売上高推移

